

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成23年6月2日(2011.6.2)

【公表番号】特表2008-543369(P2008-543369A)

【公表日】平成20年12月4日(2008.12.4)

【年通号数】公開・登録公報2008-048

【出願番号】特願2008-515849(P2008-515849)

【国際特許分類】

A 6 1 L 9/01 (2006.01)

A 6 1 L 9/02 (2006.01)

【F I】

A 6 1 L 9/01 Z A B E

A 6 1 L 9/02

【誤訳訂正書】

【提出日】平成23年4月18日(2011.4.18)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0014

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0014】

本発明の方法は、pHが中性からやや酸性の水系液体組成物の受動的蒸発により生成された蒸気相の過酸化水素を用いることによる、屋内環境内の空気および表面からの悪臭の除去または低減を提供する。水系液体組成物は、約8重量%以下の過酸化水素を含むことが好ましい。「受動的蒸発」とは、蒸気相の過酸化水素が大量の水性組成物から直接蒸発することにより、長期間にわたってゆっくりと生成されることを意味する。ここには、水性組成物を屋内の空気中に分散したり、大量の液体もしくは液体の液滴として機械的手段（手動操作または動力装置による注入、スプレー、ミスト化、霧化、または噴霧など）を用いて直接屋内表面に適用する、方法は含まれない。液体過酸化水素組成物のpH範囲は、約15～30の温度範囲で約8～約1の範囲であることが好ましい。pHが中性からやや酸性である水系液体組成物は、低粘度の流体、粘性ゲル、または高濃度の懸濁液を含してよく、芳香剤／香料成分を含むその他の成分も含んでもよい。

【誤訳訂正2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0020

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0020】

本発明の方法は、過酸化水素の屋内空気空間への受動的蒸発に関する。本明細書において「受動的蒸発」とは、蒸気相過酸化水素が大量の水性組成物から直接長期間にわたってゆっくり生成されることを意味する。ここには、水性組成物が屋内の空気中に分散したり、機械的手段（手動操作かまたは動力装置による注入、スプレー、ミスト化、霧化、または噴霧など）を用いて直接屋内表面に大量の液体としてまたは液体の液滴として適用される方法は含まれない。水性のpHが中性からやや酸性の水性過酸化水素組成物は、均質な溶液であっても懸濁固体を含む不均質な分散体であってもよい。液体過酸化水素組成物の粘度の範囲は、「水で薄められた」流動体(25にて約10センチポイズ未満)の粘度から高粘性かつ硬質のゲル、ペーストまたは懸濁液(25にて約100,000cps以上)のそれにまで至る。粘度増加剤には、過酸化物安定性の界面活性剤系、過酸化物安

定性ポリマー、ならびに各種の固体無機増粘剤／增量剤（アルミナ、シリカ、および天然／合成粘土など）が含まれうる。

【誤訳訂正3】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

屋内環境内の空気および／または表面から悪臭を低減させる方法であって、前記空気または表面を、15～30の温度範囲で1～8pHの範囲を有し0．1重量%～50重量%の過酸化水素を含む水系液体組成物から過酸化水素を、屋内の空気中に分散することや機械的手段を用いて直接屋内表面に適用することを含まない手段によって蒸発させることにより得た蒸気相の過酸化水素で処理することを含む、方法。

【請求項2】

前記水系液体組成物が0．1重量%～10重量%の過酸化水素を含む、請求項1に記載の方法。

【請求項3】

前記水系液体組成物のpHの範囲が2～7である、請求項2に記載の方法。

【請求項4】

前記組成物が、芳香剤をさらに含む、請求項3に記載の方法。

【請求項5】

前記水系液体組成物が0．5%～8%の過酸化水素を含む、請求項1に記載の方法。

【請求項6】

前記水系液体組成物のpHの範囲が2～7である、請求項5に記載の方法。

【請求項7】

前記組成物が、芳香剤をさらに含む、請求項6に記載の方法。

【請求項8】

前記水系液体組成物のpHの範囲が3～6である、請求項7に記載の方法。

【請求項9】

水系液体組成物の受動的蒸発が加熱または送風機により促進される、請求項1に記載の方法。